

# 音楽療法各論

[講義] 第3学年 後期 必修 2単位

《担当者名》 近藤里美 skondo@hoku-iryo-u.ac.jp 浅野雅子 増澤綾子

## 【概要】

「音楽療法」および「音楽療法各論I」で学んだことを基礎に、医療・福祉領域での音楽の療法的役割について学習する。特に、脳神経疾患領域、メンタルヘルス、高齢者領域において音楽療法がどのように活用されるのかを実践例を通して学ぶ。

## 【学修目標】

「音楽療法」および「音楽療法各論I」で学んだことを踏まえ、神経学的領域、メンタルヘルス領域、高齢者領域における音楽療法の実践力を身につけるための知識と音楽療法技能を身につける。

1. 高齢者領域の音楽療法の役割、目的に則した介入方法、評価方法について説明できる。
2. メンタルヘルス領域の音楽療法の役割、目的に則した介入方法、評価方法について説明できる。
3. 脳神経疾患領域の音楽療法の背景、理論、目的に則した介入方法、評価方法について説明できる。

## 【学修内容】

| 回             | テーマ                     | 授業内容および学修課題                            | 担当者          |
|---------------|-------------------------|--|--------------|
| 1             | オリエンテーション<br>高齢者領域の音楽療法 | 講義の流れや評価の説明<br>身体的側面から見るニーズの理解と音楽療法の役割 | 近藤里美         |
| 2             | 高齢者領域の音楽療法              | 認知的側面から見るニーズの理解と音楽療法の役割                | 近藤里美         |
| 3             | 高齢者領域の音楽療法              | 心理的側面から見るニーズの理解と音楽療法の役割                | 近藤里美         |
| 4             | 高齢者領域の音楽療法              | 社会的側面から見るニーズの理解と音楽療法の役割                | 近藤里美         |
| 5             | 精神障害領域の音楽療法             | 受動的音楽療法の種類とその手法                        | 浅野雅子         |
| 6             | 精神障害領域の音楽療法             | 能動的音楽療法の種類とその手法1<br>歌唱活動を中心に           | 浅野雅子         |
| 7             | 精神障害領域の音楽療法             | 能動的音楽療法の種類とその手法2<br>合奏活動を中心に           | 浅野雅子         |
| 8             | 精神障害領域の音楽療法             | 認知機能と音楽療法<br>精神障害領域における音楽療法のまとめ        | 浅野雅子         |
| 9             | 神経学的音楽療法                | 神経学的音楽療法の概論と方法（感覚運動領域）の<br>理解・体験       | 増澤綾子         |
| 10            | 神経学的音楽療法                | 神経学的音楽療法の概論と方法（感覚運動領域）の<br>理解・体験       | 増澤綾子         |
| 11            | 神経学的音楽療法                | 神経学的音楽療法の概論と方法（認知領域）の理<br>解・体験         | 増澤綾子         |
| 12            | 神経学的音楽療法                | 神経学的音楽療法の概論と方法（認知領域）の理<br>解・体験         | 増澤綾子         |
| 13            | 神経学的音楽療法のまとめ            | 神経学的音楽療法のテクニックを用いた介入方法の計<br>画と実践       | 増澤綾子         |
| 14<br>）<br>15 | 音楽療法とコミュニティワーク          | フィールドワークの見学<br>学習のまとめ                  | 浅野雅子<br>近藤里美 |

## 【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

## 【評価方法】

平常点50%、授業内で行う確認テスト50%

## 【教科書】

講義時に必要な資料を随時配布する。

## 【参考書】

アリシア・アン・クレ 他 著 廣川恵理 訳 「高齢者のための療法的音楽活用」 一麦出版社 2017年  
和田行男 「認知症になる僕たちへ」 中央法規出版 2008年  
トム・キットウッド 著 高橋誠一 訳 「認知症のパーソンセンタードケア」 七七舎 2017年  
マイケル・タウト 三好恒明 他 訳 「新版リズム、音楽、脳：神経学的音楽療法の科学的根拠と臨床」 共同医書出版社  
2011年  
マイケル・タウト フォルカー・ホルベルク 他 編集 「神経学的音楽療法ハンドブック」 一麦出版社 2018年  
佐藤正之 「音楽療法はどれだけ有効か：科学的根拠を検証する」 化学同人 2017年

#### 【学修の準備】

あらかじめ配布された資料・楽譜をもとに、十分な事前学修を行うこと。毎回の授業後には、各自の課題点を整理し、復習すること。事前学修・事後学修に各々80分を費やすこと。

#### 【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）作業療法士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

#### 【実務経験】

近藤里美（音楽療法士） 浅野雅子（作業療法士、音楽療法士） 増澤綾子（音楽療法士）

#### 【実務経験を活かした教育内容】

医療機関および介護保健施設での実務経験を活かし、担当の講義を行う。